

地域の大学と連携しているクラブ

学生と一緒に作る「トランポリンの街」 ～善行大越スポーツクラブ～

トランポリン教室をクラブの中心事業として活動する「善行大越スポーツクラブ」は、設立当初より地域の大学生や大学院生を、クラブ運営に積極的に受け入れる体制をとっています。学生が参加するようになったキッカケや、学生と連携することでクラブ側と学生側、それぞれにどういった利点があるのかなどに注目しました。

🔑 4つのキーポイント

- 1 クラブ設立のキッカケ
- 2 立ち上げから学生が活躍
- 3 学生に学習・研究の機会を提供
- 4 自然と学生が集まるクラブ

1 クラブ設立のキッカケ

○自治体の活動からクラブを立ち上げ

善行大越スポーツクラブの前身は、市の助成金と一般家庭からの会費で運営する善行・大越地区社会体育振興協議会でした。主に、地区の運動会やママさんバレー、バドミントン教室を無料で開催していましたが、当時の協議会の中心人物でもあった櫻中勝信さん(クラブマネジャー)が総合型クラブの存在を知り、受益者負担制度の運営を考えたことがクラブ立ち上げの発端となりました。

その後、平成18年に同クラブを設立し、善行地区の青少年指導員であった田代明美さん(アシスタントマネジャー)とともにトランポリン教室をスタートしました。

2 立ち上げから学生が活躍

○2人のキーパーソン(田中正男さんと松橋崇史さん)

一方、当時、慶應義塾大学大学院の湘南藤沢キャンパス(以下、SFC)に通っていた松橋崇史さん(設立監事)は、地域の人々と学生がスポーツを通じて触れ合う機会を作りたいと、同大学の体育会の学生によるスポーツ教室を開催していました。かねてより、地域での学生という人材活用に興味があった藤沢市スポーツ推進課長(当時)である田中正男さんが、その活動に感心し、櫻中さんの考える総合型クラブの立ち上げについて松橋さんに相談したことから学生がクラブづくりに関わるようになります。

3 学生に学習・研究の機会を提供

○クラブ側から見たメリットとは

学生がクラブの運営に関わることにに対し、櫻中さんは「私たちのクラブは学生の力があってこそ運営できたと思っています。学生は、もともと我々の活動に興味があるため率先してアイデアを出し動いてくれます。学生が窓口となり、慶應義塾大学スキー部の学生によるノルディックウォーキングのイベントや国内のトップアスリートを招聘した特別教室も実現しました」とその活躍ぶりを語ります。

現在は、2名の学生がクラブをサポートしており「本当に少ない金額の謝礼をお渡ししていますが、クラブを手伝うのは「お金のためではない」と言ってくれるので非常に助かっています。クラブ側にとって、高いモチベーションで豊富な労働力のある優秀な人材を低コストで確保できるというメリットは大きいです」とも言います。

○学生側から見たメリットとは

現在、SFCに通いながらクラブをサポートしてきた斎藤和真さんは、クラブ運営に関わることで「地域スポーツが抱える問題を実践的に学べることは、非常にいい経験になっています」と話しています。また、「地域スポーツ

が、本当にその地域に住む人たちに支えられて成り立っていることに驚きました」とも言い、そういったことを知り、今では、研究のためよりも、自分も一員となって地域スポーツを推進する人たちを支えたいという思いが強くなっていると話します。

4 自然と学生が集まるクラブ

○「卒業」も新たな活性につなげる

当然、学生は卒業と同時にクラブから離れてしまうという懸念もあります。しかし、クラブ設立からの8年間、学生のサポートが途切れることはありませんでした。あくまで学生の興味・関心がクラブへのサポートにつながっています。クラブの事業自体が発展し、常に「面白いこと」をしていれば、社会的にも注目され、学生も自ずとここで学びたいと思ってくれると考えています。また、一定のサイクルで新たな人材を迎えることは、クラブを常に活性化させるカンフル剤になるという意味で、必ずしもデメリットではありません。

○トランポリンの街、善行へ

現在は、地域の小・中学校の体育館を借りてほとんどの教室を開催しています。そのため、卒業式や入学式の時期など、学校側が体育館を使用する場合は活動ができません。根本的な解決策として、クラブ専用の体育館を設立したいと考えています。

また、平成21年に開始したトランポリン教室がクラブ事業の中心となり、最近では地元の小学校でトランポリンを授業に取り入れるという話も出るようになりました。トランポリンの出張授業というアイデアもあり、地域全体で「トランポリンの街」に向け、地域スポーツの活性に貢献したいと思っています。

(善行大越スポーツクラブ クラブマネージャー 櫻中勝信)

クラブプロフィール

設 立：平成18年2月
 地 域：神奈川県藤沢市善行地区
 運 営：会員数438名
 予算規模：約1460万円(内、平成26年度toto助成金216万円)
 連絡先：非営利型一般社団法人 善行大越スポーツクラブ
 〒251-0877 神奈川県藤沢市善行団地6-1
 善行小学校西門
 T E L：0466-77-5345
 F A X：0466-77-5345
 E-mail：zosc@cityfujisawa.ne.jp



(左) 松橋崇史
 まつはし・たかし
 一般社団法人 善行大越スポーツクラブ 設立監事
 東京工科大学メディア学部 助教

(中) 櫻中勝信
 さくらなか・かつのぶ
 一般社団法人 善行大越スポーツクラブ クラブマネージャー

(右) 斎藤和真
 さいとう・かずま
 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 修士課程